

プロジェクト報告書

団体名 特定非営利活動法人
国分寺市にふるさとをつくる会

1. プロジェクト名

子どもの自然体験

2. プロジェクトの目的とその背景

2001年、西恋ヶ窪緑地（通称エックス山）の地権者に相続税負担が生じ、山林の開発計画が起りました。当地は私有地でしたが、子どもの遊び場であり自然林の状態で見守られ、畠山重忠の悲恋の伝承も残る山林です。ついては、この地を子孫に残し、子孫に伝えようと地権者方々に相談のところで賛同を得て、多くの署名をいただき市議会の請願採択を得て公有化となりました。

その当地を子孫に伝えようと、2002年から『森の自然塾』が始まりました。また2005年からは、塾の充実と無事故をめざし自然体験活動推進協議会（CONE）の『指導者養成講座』認証を得て学び、資格者として携わる運営となりました。と共に近隣の小学校からは、総合学習としての無料講師の派遣依頼が増加し、指導者と保護者・子どもたちの充実めざすことも背景にあります。

運営に携わることで資格者は、事前調査や講師打合せ、資格者講習会など個人出費の重みを増しましたが、「やりがいある資格者の運営」と「より充実した森の自然塾」をめざしましたのが今回の事業目的です。

3. プロジェクトの内容

子どもの自然体験活動が、今迄の研修を生かし、指導者が無理な負担にならない様な森の自然塾をめざしました。そのために予算計画が大幅な減額と合致する、開催日数を半分の10回開催としました。

その内容は、塾責任者等が講師を務め、副責任者2名、安全指導員7名以上を目標とし、充実した体制を構成しました。また、塾開催に於いては、子ども保護者の方々に第一を自分の子どもの安全、次に周りを見ながら周囲の方々の安全確認の協力をいただきました。その方々は無料奉仕で協力を得ました。

塾での安全・安心の要点は、次の重点協力を得ました。

- (1) たえず周囲からのスズメバチ飛来の看視。
- (2) 頭上の落枝・倒木の危険性の場所から避難。
- (3) 開催中に子どもが開催区域から出場する場合は、安全指導員と同行する。
- (4) 活動区域内における危険植物、クモの巣、目先の小枝等場所は、安全指導員と共に事前に確認。
- (5) 服装は、長袖・長ズボンと明るい帽子が原則。
- (6) たえず水分補給。

塾内容のプログラムにアクティビティは、3項目以上とし、指導員が手分けで実施しました。その基本的な内容は、「森の生物多様性を知る」「森の中は生物が共存している」「命の尊いこと」、を含め危険性を知りながら森と親しむことをめざしました。

4. プロジェクトの実施にあたって工夫とその効果

- (1) 子どもの知識欲の向上と子どもの創造性を考えた塾内容としましたので、遊びと少々懸け離れ、なじまない子も居ましたが、挑戦した構成となりました。それは、『思い出』残る塾であったと思います。
- (2) 塾内容は、できるだけグループ分けしゲーム的に構成し、仲間と感動する効果をねらいました。人間関係が調和ある育成をめざした効果があったと思います。
- (3) 毎回ほど自然観察を取り入れ、自然を大切にすることを期待したアクティビティに構成し、森の変化を知り自然の理解を深めました。
- (4) 自然は、植物ごとに違った動物が生存し棲んでいることを観察し、それぞれが共存していること、植物が絶えると地域の種が滅亡すること、各々の命が大切なことから『命』の尊さを学びました。また、森は共生のほか食物連鎖による競争社会であることも理解を深めました。
- (5) 森は危険もあるが、心の休まる健康増進の場であり、学ぶことができる場と共に、保護者に安全確認を務めていただくことで保護者と子どもの絆が深まり、参加者が森を味わう効果となりました。

5. 全体的な所感、終了した感想

- (1) 保護者の協力も得て、指導員と共に一体となった『安全確認』ができ、かつ、自然保護の意味と一緒に体験ができました。
- (2) 毎回の塾終了後は、「今日の塾は楽しかったですか？」との質問に、「楽しかった」回答得て、保護者と共に確認し合いました。
- (3) 今回は、「無理がなく、事前のアクティビティ構成」をめざしたプロジェクトとしましたことから、予算の都合上で10回の開催となりましたが、保護者と子どもたちに自然保護の大切なことも体験できたと思います。この事業にご支援を賜りましたことに感謝します。

6. 参考資料

別紙『参考資料活動内容報告書』

○参考資料あり、 特になし

